

カラマツコンテナ苗木を1年で作る

コンテナ苗木は数百cc程度の容器で作られる苗木です。最近のコンテナ容器は、根が健全に育つようリブやサイドスリットが設けられ(写真-1)、ヨーロツパや北米でコンテナ苗木が広く植栽されています。

日本でも10年ほど前からスギを中心にコンテナ苗木の植栽が試みられるようになりました。コンテナ苗木は培土ごと植栽されるため活着がよく初期成長が早い、根鉢がコンパクトで形状が一定であるため植栽経費の削減につながると期待されていますが、これらの評価は確立されておらず、現在、育苗試験や植栽試験を通じて検証が行われています。

北海道では国有林を皮切りに2011年から試験植栽が開始されました。しかし、トドマツ、アカエゾマツ、カラマツ等の道内造林樹種のコンテナ苗木育苗技術はいまだ未確立であり、その研究開発が急がれています。

林業試験場では現在、「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業((独)農研機構生研センター)」の支援を受けてカラマツの初期成長の早さを活かして1年でコンテナ苗木を生産する技術の開発に取り組んでいます(写真-2~4)。これまでの試験結果によると150cc以上のコンテナ容器を使って4月に播種すると10月には苗長30~40cm程度の苗木を育てることができること、2年生コンテナ苗木よりも1年生コンテナ苗木で植栽後の活着、成長がよいことが明らかとなり、1年生コンテナ苗木生産方法の確立に向けて詳細な育苗条件について試験を続けているところです。

(経営G 来田和人)

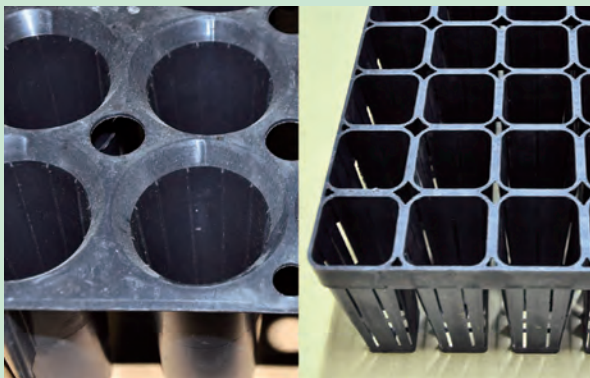


写真-1 コンテナ容器の内側にある線状の突起「リブ」により根巻き防止効果を施したコンテナ(左)と、サイドにスリットを設け、根巻き防止と根切り効果のあるコンテナ(右)



写真-2 コンテナに直接播種して発芽したカラマツ



写真-3 施肥量を変えた育苗試験
左から元肥+液肥、液肥2倍、液肥標準量、液肥0.5倍、液肥なし(播種後5ヶ月)



写真-4 コンテナ容器を変えた育苗試験
左から、HikoV-120 SideSlit、Rigi-Pot IP220、JFA150、JFA300、Mスター150、Mスター300。数字は培土の容量(cc)を表す。左から2つがサイドスリットタイプ、その他がリブタイプ(播種後5ヶ月)

林業試験場 本 場 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166
道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024
道東支場 TEL 0156-64-5434 FAX 0156-64-5434
道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164
ホームページ <http://www.fri.hro.or.jp/> (4月から下記に変更になります)
<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fri>

発行年月 平成27年2月
発行 地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
森林研究本部 林業試験場
〒079-0198 美唄市光珠内町東山